

農園便り 8

月号(115号)

文責 筒口 典康

(2022/08/01)

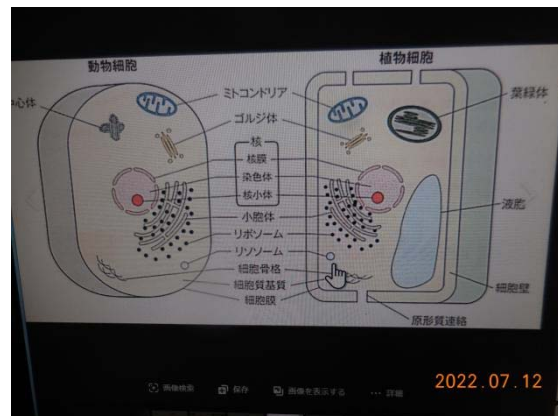
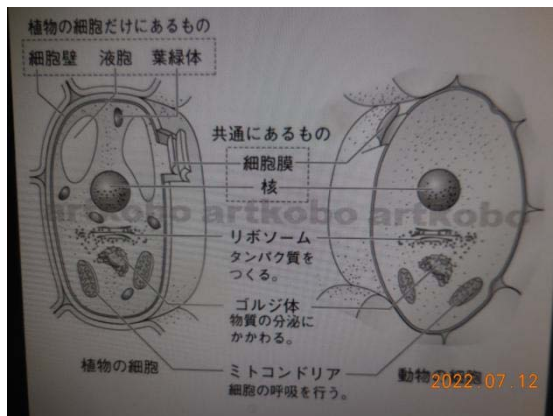
6月15日5時30分頃、区の巡回の田中(田中造園)さんから電話が。除草剤を散布する平沢さんを捕まえる。15日午後4時30分ごろに事件が発生した。取っ組み合った「I」さんが擦り傷を負う。「クサノンEX顆粒剤」、液剤の方は不明。駆けつけた警察官の指導が入って、『もう、しません』と言うことであった。15日は、私は小庭の手入れが大変で、農園に出かけなかった。

16日4時30分 都市農業課大場さんから電話。事件の報告と出入り口の工事、薬品の保管は区民農園当課にあると聞く。工事を急がせるとの事で、嬉しい。農園の掲示板には耕作者名の一覧表はあるのですが、電話番号はありませんので、当日、被害を受けた私には誰からも連絡はありませんでした。

都市農業課から工事予定、入り口の鍵の番号、管理通知等の説明文が届く。

性懲りもなく、平沢は農園脇の路を徘徊する。『何たって、ここは区道なんだから、誰が通ったっていいんだヨ』と、うそぶく。その都度、気づいた方が110番通報。警視庁のパトカー警察官2名が、駆けつける。『被害の畑はどこですか』。被害を受けた4区画を確認する。『これは立派な犯罪です』。『33区の方の氏名、住所、電話番号は・・・』、『石神井警察に薬品が、保管されていないので、これは、事件になっていないネ』、『今日から事件と言うことになりました』と。

さて、除草剤の生命体に対しての薬害について考えていきたい。



羊土社 「現代生命科学 生命科学教科書編集委員会編」から

真核生物が細胞の組織内にミトコンドリア細胞を取り込み、生命活動を効率化。さらに、葉緑体を取り込んで植物となり。動物は植物の作る栄養を取り込み生活する。

クサノンEX、又、液状の除草剤にしても、細胞のミトコンドリアを破壊。

葉緑体を白化黄変、破壊する。植物の維管束を通して、植物全体を溶かす。茹でたようになる。

残留性も強く3か月、6か月、3年。光合成の時にATPなる生命活動物質が作られる。ミトコンドリアでは各種のアミノ酸の合成、ATPも…。ミトコンドリアの破壊は生命活動を奪う。未恐ろしい薬剤である。読み難いのですが人体に対する影響を述べた記事をお載せさせていただきます。ご覧ください。

要と推定されるタンパク質をコードする500種以上の遺伝子はマラリア原虫

コラム図2-3 動物的な真核生物の系統関係

Column ミトコンドリアDNAの変異によって起こる病気

ミトコンドリアは、二分裂しながら自らのDNAを分配していく(コラム図2-3)。このDNA上には、ミトコンドリアではたらく多数のタンパク質の遺伝子が存在している。この遺伝子の一部に変異が起きると、しばしば「ミトコンドリア病」と呼ばれる病気を引き起こす。ミトコンドリアは、細胞のエネルギー産生装置としてなくてはならないものである。この病気は、ミト

コンドリア異常のために、エネルギーを必要とする筋細胞、神経細胞、腎臓の細胞などがその機能を果たすことができなくなったことにより起こり、筋力低下、筋萎縮などの骨格筋の症状、さらに、知能低下、痙攣、難聴、外眼筋麻痺などの多彩な神経症状がみられることが多い。また、心臓肥大などの症状を表すこともある。

ミトコンドリアDNA

コラム図2-3 ニミトコンドリアの

3 細胞の成り立ちと細胞

2022.07.13

↑ 現代生命科学 p31 column 「ミトコンドリアDNAの異変によって起こる病気」より

まず、野菜たちの成長する芽先が黄変してくる。成長が止まる。体全体委縮する。高濃度の場合、白化する。苦しそうである。葉柄が垂れる。ベッタリ。地上部を軽く引っ張ると、ヌルとぬける。茹で上がったように抜ける。根菜類ではそのまま地中に留まる。蟻も芋虫もミミズも居ない。生命体が無くなってしまふ。こんな薬がコンビニや園芸店で売られている。大量に並んでいる。100円ショップにも置いてあるそうです。簡単に手に入る。とにかく、除草農薬とはそんな恐ろしい物であるのかと、認識した。

殺虫剤のネオコチノイド、除草剤のクロホサートが、住友科学園芸を始めとする大企業が多様な商品を揃えて、売りさばいている。『希釈度を守れば、これほど安全で安全な薬剤はあませんよ』と、元同社員(草間・持田氏)は言う。

私も若い時に、「全薬工業」に勤務していたことがあります。農薬部門の開設にあたり要員として採用された。尊敬する社長は農薬部門の開設を止めた。

除草剤散布後の畑をどのようにすれば良いのか思案する。「クサノンEX

の薬害」で検索しましても対策については、ほとんど何も出てきませんでした。「Mg」と「Si」で改善できるとありました。

手持ちの肥料「マグアンプK」と刈り取った「スギナ」を被害畝に撒きまして混ぜました。更に、小庭の落ち葉を除けて、ミミズの居そうな土を集めまして、畝の上に乗せる。(7/12) 幸い土砂降りの雨が降りました。土の中の雑草の種子の発芽も期待する。菌類たちも復活してくれ！ミミズやダンゴ虫のいる畝の作物ならば食べることもできようと！今のままでは恐ろしくて、採れた野菜をととても食べることはできない。

畑中央に置いたコンテナー池のメダカたちが次々と溶けていく。中に入れた小鉢ごと泥を捨てる。枯れてしまったクワイ、ミニカワホネ、セリが、土毎腐っている。小鉢を洗ってコンテナー池に戻す。農薬とはそんな恐ろしいの物であるのかと、あらためて認識した。卵の付いた松葉藻を入れる。全く、除草剤は恐ろしい。メダカの(動物の)ミトコンドリアも破壊する。

やさい畑の竹村さん、『検索しても除草剤散布後の対策は見つかりませんね』『そのようなことは普通起こりませんから、困りましたネ』検索してみるとスイカ農家、メロン農家で、嫌がらせの被害があるようだ。それでも、散布被害後の記事が見つからない。では、「私めが取り組んでみよう」と決意する。小さな小さな区民農園での取り組みだ。

3月から大量の購入堆肥「みのり堆肥」を入れている。タキイ種苗の「ダルマ堆肥」、かぐや姫の「竹チップぼかし堆肥」、KKエンザの醗酵豚肥「グリーンランド」、自作の「薄上秀男式のぼかし肥料」・・・が、全て除草剤で汚染されてしまった。困った。腹立たしい。3～8月までの努力が空しい。残留の除草剤をどのようにするのか、苦慮中である。

検索すると、「水で洗う」、「Mg」「Si」施肥が良いと言う。やってみます。都市農業課の大場さんからは、「土」の入れ替えをすすめられた。出来ることから先ずやってみます。報告いたしましょう。



↑ 7/11 水を流して、土を洗う



7/10 マグアンプKを施す 白い粒は Mg 肥

Mさんから戴いた厩舎の敷き藁、有難く敷く(里芋のマルチ)。 どなたか不明なのですが、播種床用の用土 2 袋。 優しい方がいる。 Mさんから「ホウレン草×ツルナ」の苗が届く。 レタス、大根、ミニトマトをいただく。 感謝。

区画南にコンテナに水をはり、クワイ、イネ。 メダカを入れましょう。隣に復活中の畝 2 列。 支柱列にマグアンプK。 中央に作業路。 その作業路北側にコンテナを置く。 水棲植物で遊ぶ。 作業路から北は水分を好む植物、ナス、サトイモ、ショウガ、ミョウガ、… 全滅してしまった。 Mさんにいただいたサトイモを植える。 シッカリ根付いている。 大応援。



7/4 刈れたミョウガ 復活中の畝 コンテナの水棲植物 コンテナと鉢のキク…

7月14日、戻り梅雨か。 待望の雨に喜ぶ。 去年、キュウリの栽培に自信を得たので、大いに期待しておりました。 キュウリ畝に十分すぎるほどの堆肥。 畝間には厚い板を置いて根を守る。 直接踏まない。 水遣りは多めに。 刈草マルチをする。 自作の有機質肥料、蟹殻肥を置くようにする。 すると、どんどん生育する。。 一節に 2 本も着く。 大収穫。 でした。 トマトもナスも。 誠に懐かしい出来事でした。 今年の夏野菜はダメだ。

昨日(7/13)、オザキフラワーセンターで大根、ニンジン、白菜、チャービル(普段草)、レンゲ等の種子を買ってまいりました。 「蒔かぬ種は生えぬ」のであります。 種子も高くなりましたね。 一袋 500 円前後も致します。 もう、「混播」なんて乱暴はできませんヨ。

東京百目柿、スプリングアーレイ、ボンタンの青い実が膨らんできました。 繁り過ぎたので根元から伐採した大柿の「いさはや」に実が、久しぶりに付きました。 中国柿の「大盤柿」にも。 樹木の生長に脅威。 手に負えません。 そこで、「田中造園」さんに見積もりを頼んでいるのですが、忙しいらしくて来てくれない。 困ったもんだ。 お隣りの旦那の顔が渋い。 2階の屋根を超えました。 でも、今年の猛暑には木々が伸びているので助かっている。 気温が 1~2 度ほど低いように感じる。 それにしても、楊梅=ヤマモモの伸びは凄い。 恐ろしい。 T